

第9章 長宮遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

長宮遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面に立地している。この低位の段丘面には「熊の山」と呼ばれた山林を湧水源とする清水が流れ（現在は排水溝として利用）、幅 100 m ほどの緩い小支谷を形成し、清水の北側左岸に滝遺跡、南側右岸に長宮遺跡が分布する。北東側は荒川低地の沖積地と接し、500 m 南側には福岡江川が流れ、標高 9 ～ 10 m 前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北 300 m、東西 500 m 以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

遺跡の西方には長宮氷川神社があり、この神社の縁起伝承には「長宮千軒町」として繁盛したが、戦国期に壊滅した旨が記されている。周辺の遺跡は、北側に縄文時代早・前期、古墳時代前・後期から奈良・平安時代の遺跡である滝遺跡、南側には飛鳥・奈良・平安時代、中近世の松山遺跡が隣接する。1977 年の保育園建設に伴う緊急調査で中世の屋敷地と思われる。

遺構群を検出したのをはじめ、宅地造成などにより 2016 年 7 月現在 53 ケ所で調査を行っている。主たる時代と遺構は縄文時代早期後葉から前期・中期・後期前葉までの集落跡、南側の松山遺跡寄りに飛鳥時代の住居跡、中世末から近世初頭の屋敷跡や長宮氷川神社参道に關係のある溝跡などである。

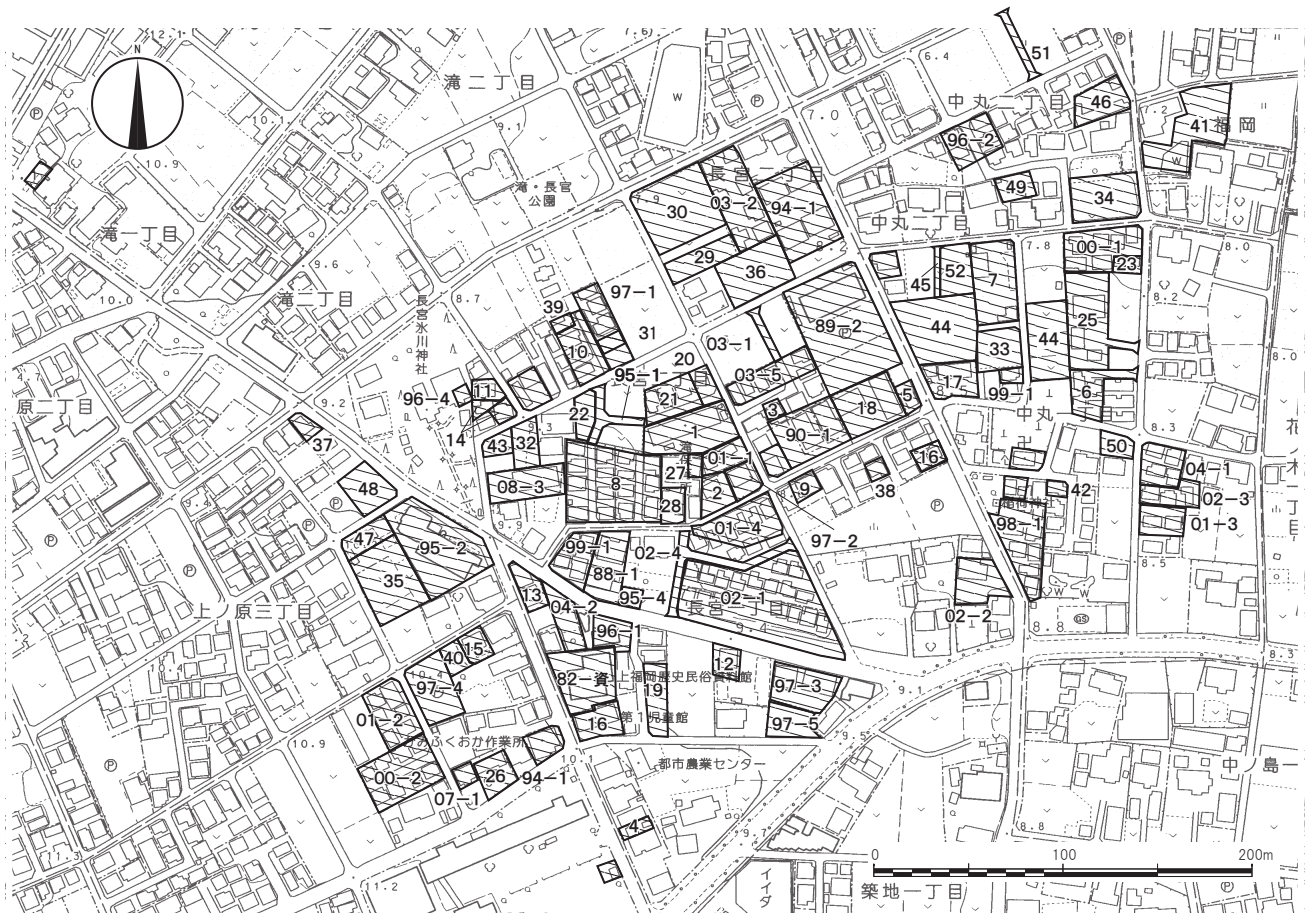
長宮遺跡第 44 地点の試掘調査および本調査については、ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 14 集『市内遺跡群 13』（2015.3）で報告済みのため、本書では割愛した。

II 長宮遺跡第 45 地点

(1) 調査の概要

調査は市道築造に伴うもので、ふじみ野市長より 2013 年 6 月 3 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置し隣接地で遺構と遺物が確認されているため、試掘調査を実施した。

試掘調査は 2013 年 8 月 7 日～ 10 日まで行った。



第 17 図 長宮遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

幅約1 mと1.5 mのトレンチ合わせて3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、第44地点から続く溝2本を確認した。遺跡確認面までの深さは約50～60 cmであり、一部を拡張して調査を行った。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。遺構と遺物は、次のとおりである。

(2) 遺構と遺物

【溝】溝4aと溝4bは調査区の北側で重なる。隣接する第45地点では1本の溝4としていたが、本地点で、2本に別れているのが再確認されたため、溝4aと溝4bとした。

溝4aはトレンチ1～3に位置する。断面は浅い「U」字形で、上幅56～110 cm、下幅10～70 cm、深さ29.6 cmである。

溝4bはトレンチ2・3に位置する。断面は「V」字形から浅い「U」字形で、上幅41～60 cm、下幅10～40 cm、深さ28.9 cmである。

【遺物】(第19図1～7) 1は、溝4a出土のカワラケで推定口径11 cm、口縁部から口唇部の内面にかけで煤が付着する。胎土は明黄褐色で1 mm以下の赤褐色スコリアを多く含む。

2～7は溝4b出土である。2、3は焙烙で、2には内耳の一部がみられる。4は渥美産の甕で叩き目痕と、割れ口の一部に擦痕がみられる。転用砥石か。5は砂岩の打製石斧で長さ9.4 cm、幅4.4 cm、厚さ1.3 cm、重さ57.67 gである。6は平瓦で重さ240.62 gである。7は緑泥片岩の板碑の上端で、二条線の一部が残る。裏面にノミ痕有り、重さ417.21 g。

Ⅲ 長宮遺跡第46地点

(1) 調査の概要

調査は高齢者ディサービスセンター建設に伴うもので、原因者より2013年6月6日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北西端に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年9月6日～10日まで試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5 mのトレンチ4本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山灰白色（または灰黄色）層までの深さは80～110 cmである。遺構はなく、表土層より遺物1点を採取した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

第14表 長宮遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
25	中丸1-4-8	(2007.2.15・16)	1,161	個人住宅	ビット3、縄文土器・石器他	市内3
26	西原2-5-2の一部	(2007.3.28)	594	個人住宅	縄文土器片	市内3
27	長宮2-1-4	(2007.5.30・31)	175	個人住宅	溝。保存措置	市内4
28	長宮2-1-8	(2007.5.31～6.5)2007.6.6～22	188	個人住宅	中近世井戸5、土坑10、ビット13他、縄文土器・石器、中近世陶磁器他	市内4
工事立会	西原2-5-31	2007.10.15	120	個人住宅		市内4
29	長宮2-4-6の一部	(2007.11.20～12.3)12.4・5	618	共同住宅	土坑1、井戸2、堀跡1、溝5、ビット10、縄文土器、中近世土器他	市内4
30	長宮2-4-6	(2009.9.28～11.2)11.4～12.8	1,362.10	高齢者福祉施設	中近世土坑、井戸、ビット8、溝2、縄文土器・石器、中近世陶磁器他	市内7、8
31	欠番					
32	長宮2-1-18	(2010.1.15～25)2.4～26	271	分譲住宅	中近世土坑20、ビット142、溝3、縄文土器、中近世陶磁器他	市内7、8
33	中丸1-3-2	(2011.5.19～31)	534	分譲住宅	縄文時代集石土坑1、土坑4、ビット13、溝3、縄文土器、瓦器、陶磁器	市内14
34	中丸2-2-2、46	(2011.6.27～7.16)11.2～12.1	914	分譲住宅	縄文時代早期炉穴、前期(関山)住居跡1、近世溝、縄文土器他	市内11
35	上ノ原3-1-4	(2011.9.9～26)	1,157.88	分譲住宅	縄文時代炉穴1、土器、石鏃	市内14
36	長宮2-4-3	(2011.10.4～17)10.21～11.14	981	分譲住宅	中近世井戸16、土坑4、溝16、ビット20、板碑他	市内11
37	上ノ原3-6-6	(2011.11.8)	105	個人住宅	なし	市内14
38	長宮1-4-27	(2011.11.24・25)	101	分譲住宅	なし	市内14
39	長宮2-3-23	(2012.2.1)	130.54	個人住宅	なし	市内14
40	西原2-5-7の一部	(2012.4.16)	201	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	市内15
41	福岡字丸橋988-1～3、989-2～5、990-3	(2012.4.17～25)6.11～7.25	1,152.62	分譲住宅	縄文時代炉穴10、縄文時代前期住居跡6、落とし穴2、土坑27、ビット190、溝4、縄文前期土器片、石器、近世陶磁器	市内12
42	仲丸1-2-24	(2012.7.31)	101	分譲住宅	なし	市内15
43	長宮2-1-72	(2013.2.27～3.1)	231	個人住宅	中世～近世溝2・土坑3・ビット17、土器、磁器	市内15
44	中丸1-3-3、1-4-5	(2013.5.14～6.24)6.25～7.30	2,128	分譲住宅	縄文前期住居跡1、炉穴6、落とし穴1、土坑15、井戸5、溝9、ビット4、縄文時代前期の土器、石器、中近世以降の陶磁器や板碑	市内13
45	中丸1-3-17・18、3-5	(2013.8.7～10)	119	道路築造	溝2、土師器、石器、板碑	市内18
46	中丸2-22・13	(2013.9.6～10)	488	高齢者ディサービスセンター	遺構なし、磁器	市内18
47	上ノ原3-1-5	(2013.10.10)	330	共同住宅	遺構遺物なし	市内18
48	上ノ原3-6-1	(2014.4.2～8)	555	分譲建売	井戸1、溝1、遺物なし	未報告
49	中丸2-2-4	(2014.10.23～30)	293	集合住宅	焼土跡5(縄文時代)、遺物なし	未報告
50	中丸1-2-17	(2015.3.16)	228	分譲住宅	遺構なし、陶磁器	未報告
51	中丸2-3-45・46	(2012.4.5)	176	道路	遺構なし、土器片1	市内15
52	中丸1-3-24	(2016.3.11～18)	484	分譲住宅	土坑1、井戸3、ビット、溝2、遺物なし	未報告



第18図 長宮遺跡遺構分布図 (1/2,500)

第20図1は、肥前の磁器で広東碗1点である。底部の約半分が残存し、推定底径6.5cmで外面に染付けを施す。

Ⅳ 長宮遺跡第47地点

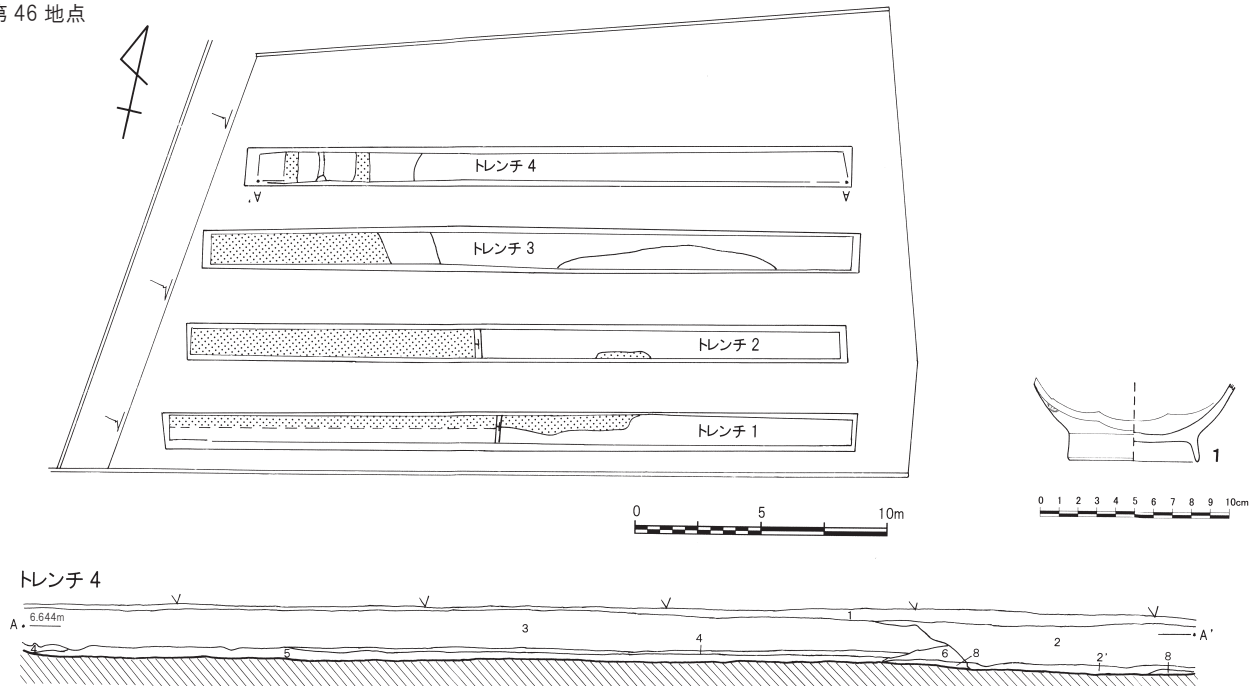
(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2013年9月26日付で「埋蔵文化財事前協議書」ふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範

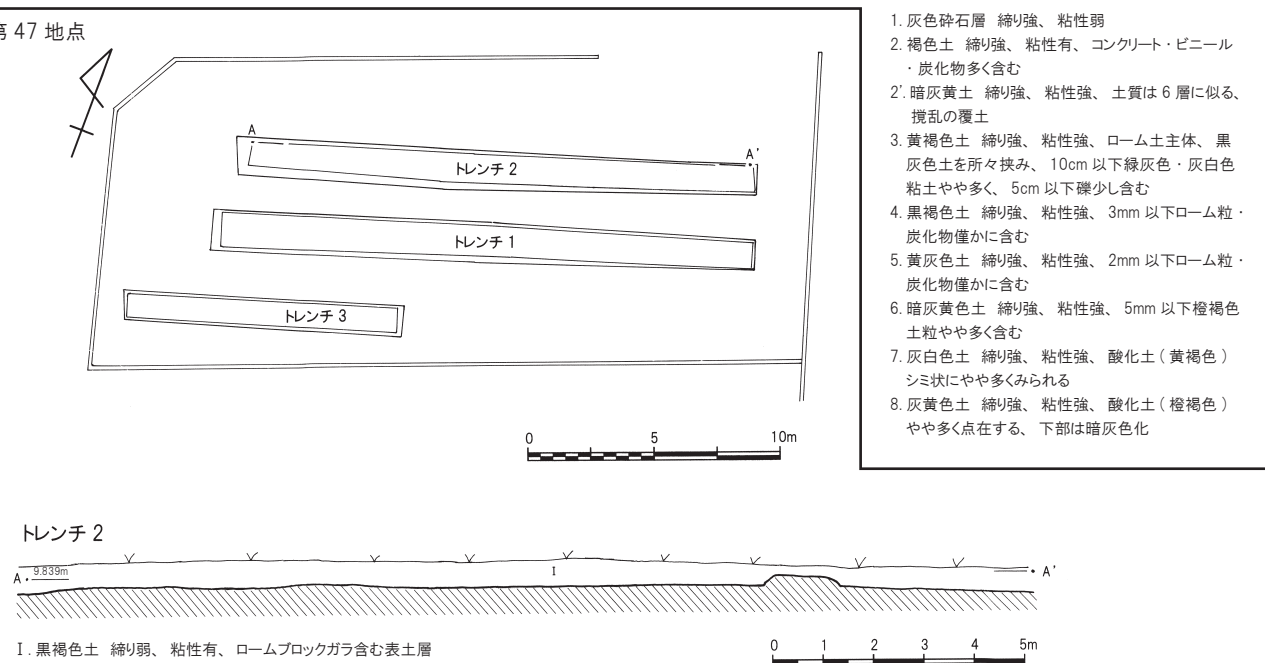
囲の北西端に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年10月10日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅1～1.5mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約50cmである。遺構、遺物はないため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

第46地点



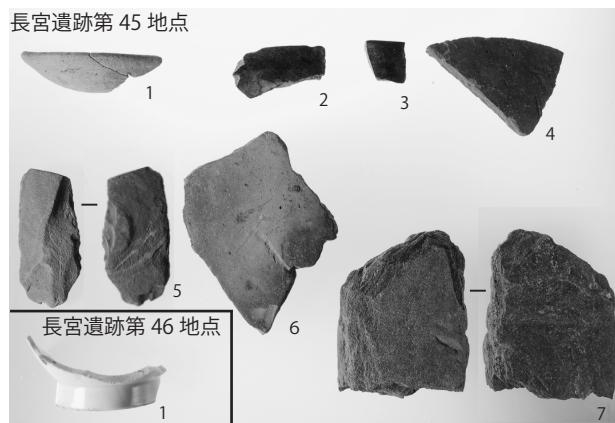
第47地点



第20図 長宮遺跡第46・47地点調査区域図（1/300）、土層（1/150）、第46地点出土遺物（1/4）



長宮遺跡第 45 地点トレンチ 3



長宮遺跡第 45・46 地点出土遺物



長宮遺跡第 46 地点近景



長宮遺跡第 46 地点調査風景



長宮遺跡第 47 地点調査風景



長宮遺跡第 47 地点近景



鶴ヶ舞遺跡第 19 地点調査風景



鶴ヶ舞遺跡第 19 地点調査風景